

【枕草子】

【(秋は夕暮れ)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の瑞すずいと近うなりたるに、鳥の寝どねどこるへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁かりなどのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。

(枕草子)

問一 〃の〃の〃のうち、意味用法が違うものを一つ選べ。

問二 音便が使われている言葉を文章中から二つ抜き出せ。

問三 鳥と雁の飛ぶ姿に寄せる筆者の心情が最もよく表れている文節を一つずつ探し、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改めて書け。

問四 「はたいふべきにあらず」の解釈として最も適当なものを次の中から選べ。

ア また、だれにも言ってはならない。

イ また、言いようもないくらい趣が深い。

ウ また、これと言つほどの趣はない。

問五 「枕草子」と並ぶ代表的な随筆文学といわれているものを次の中から選べ。

ア 万葉集    イ 平家物語    ウ 徒然草    エ 奥の細道

(徳島県)

「解答」

問一

問二 近う、まいて

問三 烏：あわれなり、雁：おかし

問四 イ

問五 ウ